



クラブ・
サークル
訪問

第3回

バッハカンタータ クラブ

「バッハカンタータクラブ」は三十五年の歴史をもち、定期演奏会の開催をはじめ積極的な活動を展開している。膨大な数のバッハの教会音楽、室内楽曲の演奏・研究に研鑽を積むクラブの歴史と現在。

教会カンタータの深遠な世界

齋藤洵

東京芸術大学バッハカンタータクラブは、その名の示す通りヨハン・セバスティアン・バッハのカンタータを演奏する、東京芸術大学のクラブです。

このクラブは一九七〇年に芸大の学生たちによって創立されました。創立当初から、日本を代表するチェンバリストでありバッハ演奏の第一人者である小林道夫こばやしのみちお先生を指導



2005年12月11日、女子聖学院内チャペルで催された演奏会とリハーサル風景。曲目はJ.S.バッハ《ブランデンブルク協奏曲第5番》と《カンタータ第26番「なんと憐く虚しき」》。



毎週金曜日の夕刻に行われる練習のようす。

者に迎え、主にJ・S・バッハのカンタータや室内楽曲の演奏・研究を目的として活動をしています。

この三十五年の間に幾度となく存続の憂目に晒されたようですが、近年は部員の増加に伴い《口短調ミサ》《ヨハネ受難曲》《マタイ受難曲》の大曲にも取り組むことができました。

年間の演奏会は四月と五月の新生歓迎演奏会、八月の日光演奏旅行、九月の芸術祭、十月の上野下谷教会での音楽礼拝、二月の定期演奏会と通常六回。年間六、七曲に取り組むわけですが、それでもバッハの教会カンタータは約二百曲あります。一曲仕上げるのでさえ七転八倒の苦しみなのに、それがまだ二百曲も横たわっているなんて、到底先の見えない作業です。逆に言えば、一曲一曲の内容の深さがあり、そして作曲家の底が見えない。それからこそ私たちがバッハに魅せられる所だと思います。

そして何より小林先生の導く音楽への、特別な思いが紡がれたからこそ、このクラブが三十五年間も続いたのだと思います。ただ、先生は昨年の定期演奏会を最後にクラブの指導から退かれました。現在のクラブは過渡期にあると言えます。現在の練習は部員から輩出した指揮者を中心に部員同士で試行錯誤しながら、けれども小林先生が大事にされていた音楽のあり方は忘れずに音楽を作っています。

毎週金曜日五時半から校内で練習しています。バッハが好きな方、合唱の好きな方、とにかく誰でも気軽に遊びにきてください。

(さいとう・じゅん/音楽学部声楽科三年)